



現代っ子高

アンケートに見る

「明るくて卒直で自分の意見がはっきりいえる。」「思いやりや公德心に欠ける。」「前者が現代っ子の良い点で後者が欠ける点と一般的にいわれている。そして、「思いやりのある素直な子どもになってほしい。これは、親が子どもに望む共通した代表的な願いなのだそうです。

県教育委員会が「在学青年の生活意識に関する調査」をまた、市青少年問題協議会が「子どもに関する悩みと相談」のアンケートをまとめました。この2つの調査から現代高校生気質の輪郭が読みとれるような気がします。

現実的な 在学青年の生活意識

県教育委員会は、昭和52年に県内30校2,000人の高校生を対象として、「高校生の生活意識と行動に関する調査研究」を行いました。

この調査結果から、現代の高校生気質を浮き彫りしてみると…。

◆ 多い勉強と進学の悩み

現代の高校生が「悩んでいることや心配していることは何か」をみると、選択肢13項目の中で、最も多いのが「勉強のこと」ついで「将来のこと」「進学のこと」の順になっています。

これを学年別にみると、1年生は

勉強、2年は異性や性格面、3年生は将来と就職のことでの悩みが多く各学年毎の特徴といえます。(表)

◆ 目立つ無目的の勉強

「今、何のために勉強しているか」の問に対しては「自分をみがくため」という答えが37%で一番多いが、これを除くと「ただ何となく」「どこでもよいから就職するため」「しかたなく」といった無目的で、なりゆ

きまかせの姿勢が目立っている。

しかも、この姿勢は、上級学年になるにつれて、はっきりしてくる傾向がみられます。

とくに、「ただ何となく」は、1年生26%、2年生31.9%、3年生32.4%「どこでもよいから就職するため」は1年生19.2%、2年生23.0%、3年生27.8%。この他に全体で「一流大学に入るため」が10.6%となっている。

高 校 生 の 悩 み

単位：パーセント

選 択 肢	全 体	1 年	2 年	3 年	選 択 肢	全 体	1 年	2 年	3 年
勉 強 の こと	64.5	77.0	63.8	52.4	性 格 の こと	24.7	24.3	26.8	22.6
進 学 の こと	35.0	24.9	40.5	40.0	世の中のこと	5.9	6.1	5.9	5.6
家や家族のこと	9.5	8.7	10.8	8.8	容 姿 の こと	9.3	8.5	10.4	8.8
友 人 の こと	13.6	14.2	15.2	11.4	将 来 の こと	44.9	40.5	43.4	51.1
異 性 の こと	21.2	18.9	23.1	21.5	お 金 の こと	13.6	16.2	13.2	11.5
就 職 の こと	19.8	9.3	12.6	38.7	そ の 他	11.2	13.5	12.0	8.0
健 康 の こと	12.3	13.1	11.6	12.3					

社会でのふれ合いに期待

高校生の社会参加を進める研修会が、市教育委員会の主催により、11月9日の日曜日、今泉公民館で開かれた。この研修会は、3回にわたって開かれ今回が最終回。

参加した30人余の高校生は、講義・グループ討議・クリスマス会の飾り付けを学習。講師の富士東高、風間校長先生は、「高校生に期待する。」という講義の中で「他人の気持ちがわかってくれる人になってほしい」と強調。参加者は真剣な眼差しで聞き入っていた。



高校生の社会参加を進める研修会

校生の映像

生活意識と親の悩み

◆ 約半数が生活安定志向型

「将来、どんな生活がしたいか」についてみると、一番多いのが「平凡でもよいから暮らしに困らない生活」で、「気らかな生活」と合すると、55.7%にもなる。

これは、現代っ子に生活安定志向型が多いということがいえます。

次に多いのが、「教養・趣味を生かす生活」であり、最も低率だったのは「社会奉仕型」0.7%でした。

◆ こづかいは3,000～5,000円

1ヵ月のこづかいの額は、3,000円～5,000円が一番多く43.1%。

また、こづかいの使いみちを調べてみると、ベスト3が飲食費・本・雑誌代・趣味の順。男女間で特に差がみられたのは、男子は、女子よりも趣味・娯楽に多く金をつかい、女子は、本・文具・装飾品にこづかいを使う傾向がうかがえる。

やはり親は教育上の悩み

子どもに関するアンケート調査

市青少年問題協議会は、今年の5月、市内の普通高校と商業高校の生徒を持つ親243人に対し、「子どもに関する悩みとその相談」についてのアンケート調査を実施しました。

その調査結果をみると、「子どもの養育について、深刻に悩んだことが

あるか」の問に対しては、約半数の親が「ある」と答え、そのうち70%が「教育上の悩み」を訴えている。

「悩みを誰に相談するか」につい

補導センター土屋指導主事



ては、「妻や夫または家族」が圧倒的に多い。

「悩みを妻や夫以外に相談する」のうち、「誰に相談するか」については、「学校の先生」が多いが、「専門家」を求める声も出ている。

市青少年補導センターの土屋指導主事は、「複雑化する社会の中で、子どもを持つ親の悩みは増えつつある。

相談する相手としては、今後、専門家を求める傾向が、ますます強まるのでは……」と話しています。

秋の生存者叙勲

昭和55年度秋の生存者叙勲が、11月3日の文化の日に発表され、市内では次の2人が受章されました。

勲五等瑞宝章

諸星利一さん(六十七歳)



元富士市消防団長

緑町一丁目

諸星さんは、昭和14年から41年間消防団員として、地域住民の生命・財産を守りつづけてきました。

その間、昭和44年から市消防団副団長、52年から55年まで市消防団々長を務めました。

勲六等単光旭日章

横瀬武人さん(七十二歳)



元静岡地方家庭裁判所
富士支部庶務課長

中央町二丁目

横瀬さんは、昭和3年から32年間裁判所書記官として奉職されました。

その間、台湾法院、静岡裁判所富士・清水支部に勤務。昭和27年から同36年まで清水・富士支部の庶務課長を務めました。

昭和55年度 防火ポスター

市長賞に佐藤君 津田さん

防火ポスターコンクールの入賞者が、次のとおり決まりました。

応募点数は、小・中・高校あわせて248点。佐藤君と津田さんの作品は、それぞれ秋と春の火災予防運動のポスターとして使われます。

◇ 小学校の部

・市長賞 佐藤勝吾(岩松小)・議会議長賞 小塚晴美(須津小)・教育長賞 五十嵐徹(富士第2小)・

消防長賞 露木礼子(今泉小)・防火協会賞 村上裕子(鷹岡小)・高嶋千香子(丘小)

◇ 中学校の部

・市長賞 津田登奈美(富士南中)・議会議長賞 野上志津(吉原一中)・教育長賞 遠藤道代(富士中)・消防長賞 嶋裕子(吉原三中)・防火協会賞 井上理恵子(富士南中)



小学校の部市長賞を受けた佐藤君のポスター